

4
1

「紫波町汚泥再生処理センター」が開所



テープカットを行う(左から)矢巾町議会の米倉清志副議長、矢巾町の浅沼仁住民課長、熊谷町長、武田平八町議会議長、水ing(株)の水谷重夫代表取締役社長

町は「紫波町汚泥再生処理センター開所式」を開催し、町や矢巾町の関係者、施工業者など約40人が出席しました。式では、熊谷町長が「紫波、稗貫衛生処理組合の解散に伴い、新たなし尿処理施設が必要となったため、平成28年6月から1年9カ月かけてこの施設を建設してきました。循環型社会の実現に向けて、事業を進めてまいります」とあいさつ。関係者によるテープカットが行われた後、周辺行政区の区長3人と同施設的设计・施工および今後15年間施設の管理運営を行う水ing(株)(水谷重夫代表取締役社長)に感謝状が贈られました。

南日詰小路口地内にある同施設は、町と矢巾町から発生するし尿と浄化槽汚泥を処理する資源循環型施設で、その処理能力は1日当たり44kℓ(し尿18kℓ、浄化槽汚泥26kℓ)です。処理工程で発生する汚泥は含水率70%以下に脱水し、燃料の消費を抑える助燃剤として、盛岡・紫波地区環境施設組合で活用されます。また、同施設は処理過程で発生する水質や大気、臭気などの公害規制基準に則しているだけでなく、将来に予想される規制強化にも対応できる設備を設置しています。

3
23

地域の安全安心を守る 消防団に栄誉



町消防団が受章した表彰状や表彰旗を手に笑顔を見せる消防団幹部の皆さん

町消防関係表彰伝達式がナックスホールで行われ、消防団員や婦人消防協力隊員など約50人が参加しました。町消防団は消防庁長官や日本消防協会会長、岩手県消防協会会長から表彰を受けたほか、本部副本部長の沼田伸一さんと第12分団分団長の阿部金三郎さんが消防庁長官から永年勤続功労章を受章。消防団員として長年模範的に活動した人に贈られるもので、沼田さんは「今回の受章を受け、周囲の人たちの心遣いや協力に対して感謝の気持ちでいっぱいです。今後の活動も頑張っていきます」と話しました。29年度は、延べ34人が功績章や勤続章などを受章し、功績をたたえ合いました。

3
22

ソバ生産で全国表彰



熊谷町長(中央)に受賞を報告した(左から)阿部久一事務局長と阿部隆組合長(写真は3月30日)

長岡地区の農事組合法人ゆいっこの里犬草(阿部隆組合長)は、(一社)日本蕎麦協会が主催する平成29年度全国そば優良生産表彰式で「全国農業協同組合中央会会長賞」を受賞しました。これはソバの栽培について生産性向上や経営改善の視点で創意工夫を行い、他の模範となるそば生産農家や団体を表彰するもの。同組合は排水対策などの取り組みが評価されました。阿部組合長は「ソバは気候に左右されやすいですが、今年は収量を増やすことができれば」と話しました。

4
28~29

舞い散る花びらの下、盛りだくさんのイベントで来場者を魅了



ステージイベントで披露されたバンド演奏

クラフトのお店も並び、コースター作りなどを体験する親子の姿も見られました

城山公園を会場に、城山桜まつりが開催されました。今年の桜まつりは、昨年に続き住民有志による実行委員会(岡村幸男委員長)が主催。城山公園の桜は4月22日頃に満開を迎え、桜の花びらが舞い散る中でのイベント開催となりました。28日は、紫凜会による歴史講談をはじめ、バンドや民謡の演奏、津軽三味線奏者の藤原翼さんなどによるステージイベントを開催。29日は、佐比内保育所児童によるこども金山太鼓、二日町こども鹿踊り、餅まき、古館公民館カラオケ教室など盛りだくさんのイベントで来場者を楽しませました。両日は、紫波中央駅と走湯神社から、城山公園第1駐車場に向かうシャトルバスを運行。乗車した人たちは、紫波町観光案内人「しゃ・べーる」のメンバーによる町の歴史に関するガイドを聞き、町内の景色を眺めながら、会場へと向かいました。

4
19

農業を元気にする新たな力



認定書交付式に参加した(左から)畠山さん、熊谷町長、佐藤さん

若手就農者2人が新たに町の認定農業者となり、熊谷町長から認定書が交付されました。今回認定を受けたのは水分地区の佐藤和典さん(36歳)と志和地区の畠山満正さん(30歳)。佐藤さんは「現状に満足せず、消費者の皆さんに美味しい農産物を届けたいです」とさらなる努力を誓い、畠山さんは「今年牛舎を新築したので、これまで以上にもちもち牛をPRし、生産規模を拡大していきたいです」と意欲を見せました。
※認定農業者とは、法に基づき町の基本構想に沿った計画を立て、町に認められた農業経営者。現在、町内認定農業者数は198人です。

4
4

介護予防事業の拠点施設が移転



施設の移転を祝い、テープカットが行われました

町の介護予防・日常生活支援総合事業の拠点施設「ふれあいプラザ赤石」が紫波地域診療センター内に移転し、移転開所式が行われました。これまで事業は赤石子どもの家の施設内で行われてきましたが、施設の老朽化により移転が決定。式には施設の利用者や、町から同事業の委託を受ける社会福祉法人紫波会(高橋國男理事長)の職員など約20人が参加。式終了後、利用者は運動・口腔機能改善や認知症予防などを目的とした体操やゲームに取り組みました。施設の利用についてはP13「元気はつらつサロン」の記事をご覧ください。